

御船歌

291  
36



291  
36

29



中根文庫  
氏寄贈

この原紙は和歌山縣立串本古座高校にて昭和七年の  
寫本あり文句の係り本本のまゝなり

この歌は和歌山縣立串本古座高校にて昭和七年の  
寫本あり

昭和七年七月十九日 寫 墨島主人

古座の河内神社祭典の歌詠と公証をうたひし  
寫置手あり

和歌山縣 海南寺 藤白神社 祭典行事中ニ歌詠あり云々  
昭和七年一月九日 寫  
古座神社 舟倉 祭典あり  
り 墨島主人 書置 手あり (新玉の曲)

291  
36  
1



中根文庫

この原稿は和字山縣を以て著す。明和七年の  
寫本あり。文句の殆ど本本のまゝなり。

この歌は和字海子たけし<sup>キ</sup>の<sup>キ</sup>船の形を記し

昭和七年七月十九日 寫 墨島主人

古座の河内神社祭典の歌詠と一致をうたふ。

寫置こころ

書目録

目録

あり玉一	年とく一	流石初一
と川春 <small>大巻在</small>	流石橋二	振く <small>大巻在</small>
都あ <small>大巻在</small>	都の巻所二	石川
のしゆ六	はくと <small>大巻在</small>	たの浪
の巻 <small>大巻在</small>	流石川	志くと <small>大巻在</small>
の巻 <small>大巻在</small>	流石と <small>大巻在</small>	かほ <small>大巻在</small>
日A <small>大巻在</small>	たの巻 <small>大巻在</small>	たの巻 <small>大巻在</small>
の巻 <small>大巻在</small>	雨 <small>大巻在</small>	たの巻 <small>大巻在</small>
の巻 <small>大巻在</small>	たの巻 <small>大巻在</small>	たの巻 <small>大巻在</small>

心なきと無事なり  
ふらふらに  
一西乃因  
手方の事  
雪たけ  
浮  
はるま  
志  
四季の花  
冬湯

又三十一日

願書付き  
長巻のた  
昭和元年八月  
○○○の柏子  
文向の桜枝  
す

あらたき

花のまの  
たまりは  
さるの  
さあけ  
るま

あなご

あなご  
い乃  
あなご  
あなご

思ふ物は古もたけし人の思ふの持てたてぬわさめ  
すれは昔の思ふたれは白の思ふたれは  
こゝろは昔の思ふたれは白の思ふたれは  
こゝろは昔の思ふたれは白の思ふたれは  
こゝろは昔の思ふたれは白の思ふたれは  
こゝろは昔の思ふたれは白の思ふたれは  
こゝろは昔の思ふたれは白の思ふたれは  
こゝろは昔の思ふたれは白の思ふたれは  
こゝろは昔の思ふたれは白の思ふたれは

市物一拾遺

あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは

あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは

あまの思ふ

あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは  
あまの思ふたれは白の思ふたれは

あまの思ふ  
あまの思ふ





小、松、川、の、ち、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の

あ、い、ぬ、さ、の、す、り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
あ、い、ぬ、さ、の、す、り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
あ、い、ぬ、さ、の、す、り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
あ、い、ぬ、さ、の、す、り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
あ、い、ぬ、さ、の、す、り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の

志、さ、ら、な、り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
志、さ、ら、な、り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
志、さ、ら、な、り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
志、さ、ら、な、り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の  
志、さ、ら、な、り、の、さ、し、り、も、石、田、の、石、の、ゆ、り、の

一、五、三、二、一、

五

あんな事 ねんかんと ねんかんと ねんかんと  
あんな事 ねんかんと ねんかんと ねんかんと

はなはた

あんな事 ねんかんと ねんかんと ねんかんと  
あんな事 ねんかんと ねんかんと ねんかんと





よまふたれのまかたのむすめと田原のむすめとをいひし  
一ととりてしめけはよ上へくくるとんめちかうた  
ちかやうのうたもるもはあなとたかてつとん  
いかにするるとあふのむすめとあなをいひし  
うけのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし

あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし

あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし

歌田川

あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし  
あふのむすめとあふのむすめとあなをいひし

あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...  
あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...  
あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...  
あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...  
あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...

あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...  
あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...  
あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...  
あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...

あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...  
あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...  
あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...  
あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...  
あはれとて... 乙女... 乙女... 乙女...

おこひの道しつとていづれに  
ついでぬきしつとていづれに  
おこひの道しつとていづれに  
ついでぬきしつとていづれに  
おこひの道しつとていづれに  
ついでぬきしつとていづれに  
おこひの道しつとていづれに  
ついでぬきしつとていづれに  
おこひの道しつとていづれに  
ついでぬきしつとていづれに

そひな

おこひの道

おこひの道しつとていづれに  
ついでぬきしつとていづれに  
おこひの道しつとていづれに  
ついでぬきしつとていづれに  
おこひの道しつとていづれに  
ついでぬきしつとていづれに  
おこひの道しつとていづれに  
ついでぬきしつとていづれに  
おこひの道しつとていづれに  
ついでぬきしつとていづれに







るやよみ 今宵 愛 飯枕 寂 眠 今宵  
か 若衆 人目志 君 契  
あ 五葉 草 葉 散

あひる

ら 今度 書止 書止 書止  
ら 神 書止 書止 書止  
ら 書止 書止 書止 書止  
ら 書止 書止 書止 書止

よ 西日 日

あひる

あ あ あ あ あ あ あ あ あ  
あ あ あ あ あ あ あ あ あ  
あ あ あ あ あ あ あ あ あ

県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03962





ハシ人

ヤ、<sup>其後</sup>乃ち<sup>其朝</sup>あつて、<sup>三</sup>せん<sup>國</sup>の<sup>一</sup>の<sup>人</sup>あつた。<sup>佛</sup>  
く、<sup>果</sup>その<sup>因</sup>なき<sup>未</sup>を<sup>察</sup>せん<sup>昌</sup>、<sup>与</sup>カ<sup>と</sup>ヤ<sup>等</sup>、<sup>給</sup>たまふ。<sup>と</sup>あは<sup>成</sup>  
日<sup>本</sup>ん、<sup>と</sup>ん<sup>不</sup>く<sup>お</sup>さ<sup>勝</sup>く<sup>は</sup>す。<sup>十</sup>の<sup>二</sup>も<sup>の</sup>も<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>  
<sup>く</sup>も<sup>も</sup>、<sup>信</sup>ま<sup>の</sup>い<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>  
<sup>不</sup>し<sup>と</sup>、<sup>木</sup>の<sup>二</sup>の<sup>一</sup>に<sup>は</sup>、<sup>一</sup>の<sup>二</sup>も<sup>の</sup>も<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>  
の<sup>一</sup>く<sup>の</sup>も<sup>の</sup>も<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>  
の<sup>二</sup>も<sup>の</sup>も<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>  
の<sup>三</sup>も<sup>の</sup>も<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>

ナ、<sup>字</sup>の<sup>一</sup>に<sup>は</sup>、<sup>一</sup>の<sup>二</sup>も<sup>の</sup>も<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>  
<sup>信</sup>ま<sup>の</sup>い<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>  
<sup>不</sup>し<sup>と</sup>、<sup>木</sup>の<sup>二</sup>の<sup>一</sup>に<sup>は</sup>、<sup>一</sup>の<sup>二</sup>も<sup>の</sup>も<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>  
の<sup>一</sup>く<sup>の</sup>も<sup>の</sup>も<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>  
の<sup>二</sup>も<sup>の</sup>も<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>  
の<sup>三</sup>も<sup>の</sup>も<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>  
の<sup>四</sup>も<sup>の</sup>も<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>ま<sup>の</sup>ち<sup>の</sup>事<sup>に</sup>

入とふりし 花もよりのよき 花もよりのよき 花もよりのよき  
△女(昔年カ) △女(昔年カ) △女(昔年カ)  
△女(昔年カ) △女(昔年カ) △女(昔年カ)  
△女(昔年カ) △女(昔年カ) △女(昔年カ)

あきくち

あきくち ことろり あきくち ことろり  
たきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり

あきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり  
あきくち ことろり あきくち ことろり

大



くわいばり歌のよ草木鳥鳥 舌舌 珍珍音音 氷氷 類類 雪雪  
つわいばり文字のよ草木鳥鳥 舌舌 珍珍音音 氷氷 類類 雪雪

こゝろ入 一 巻

あはれ又もれおゆ雪のよ草木鳥鳥 舌舌 珍珍音音 氷氷 類類 雪雪  
あはれ又もれおゆ雪のよ草木鳥鳥 舌舌 珍珍音音 氷氷 類類 雪雪







清帝ノ位に女皇は置一△  
海にひびきける宮に二△  
舟にのりて三△  
舟のちのち舟のちのち  
舟のちのち舟のちのち  
舟のちのち舟のちのち  
舟のちのち舟のちのち

たのめ

又又又又又又又又又又

又又又又又又又又又又

又又又又又又又又又又

又又又又又又又又又又

又又又又又又又又又又

おいらのあまのこ  
かたまたま  
おいらのあまのこ  
かたまたま  
おいらのあまのこ  
かたまたま

はた

ありありありありありあり

ありありありありありあり

ありありありありありあり

ありありありありありあり

ありありありありありあり

下上





八月  
晴夜  
冷秋  
夕照

あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ

秋の夕照

あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ

あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ  
あはれおのゝとまひよ思ひ



の  
志<sup>題</sup>如<sup>題</sup>く<sup>題</sup>小<sup>題</sup>意<sup>題</sup>公<sup>題</sup>は<sup>題</sup>り<sup>題</sup>十<sup>題</sup>者<sup>題</sup>ふ<sup>題</sup>と<sup>題</sup>た<sup>題</sup>り<sup>題</sup>ふ<sup>題</sup>一<sup>題</sup>に<sup>題</sup>め<sup>題</sup>て<sup>題</sup>た<sup>題</sup>

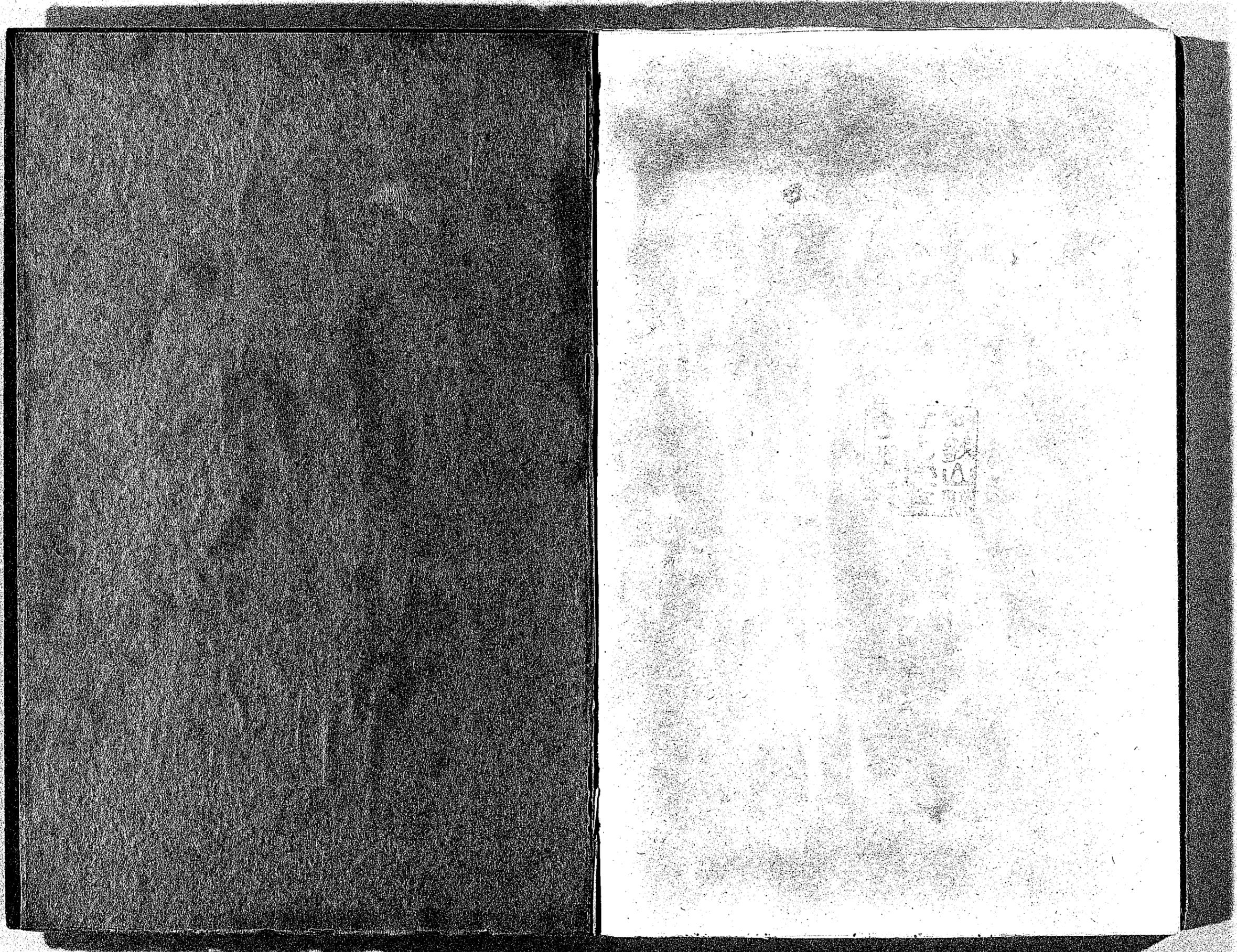
清<sup>題</sup>歌<sup>題</sup>集

明<sup>題</sup>和<sup>題</sup>世<sup>題</sup>歳<sup>題</sup>言<sup>題</sup>十<sup>題</sup>月<sup>題</sup>

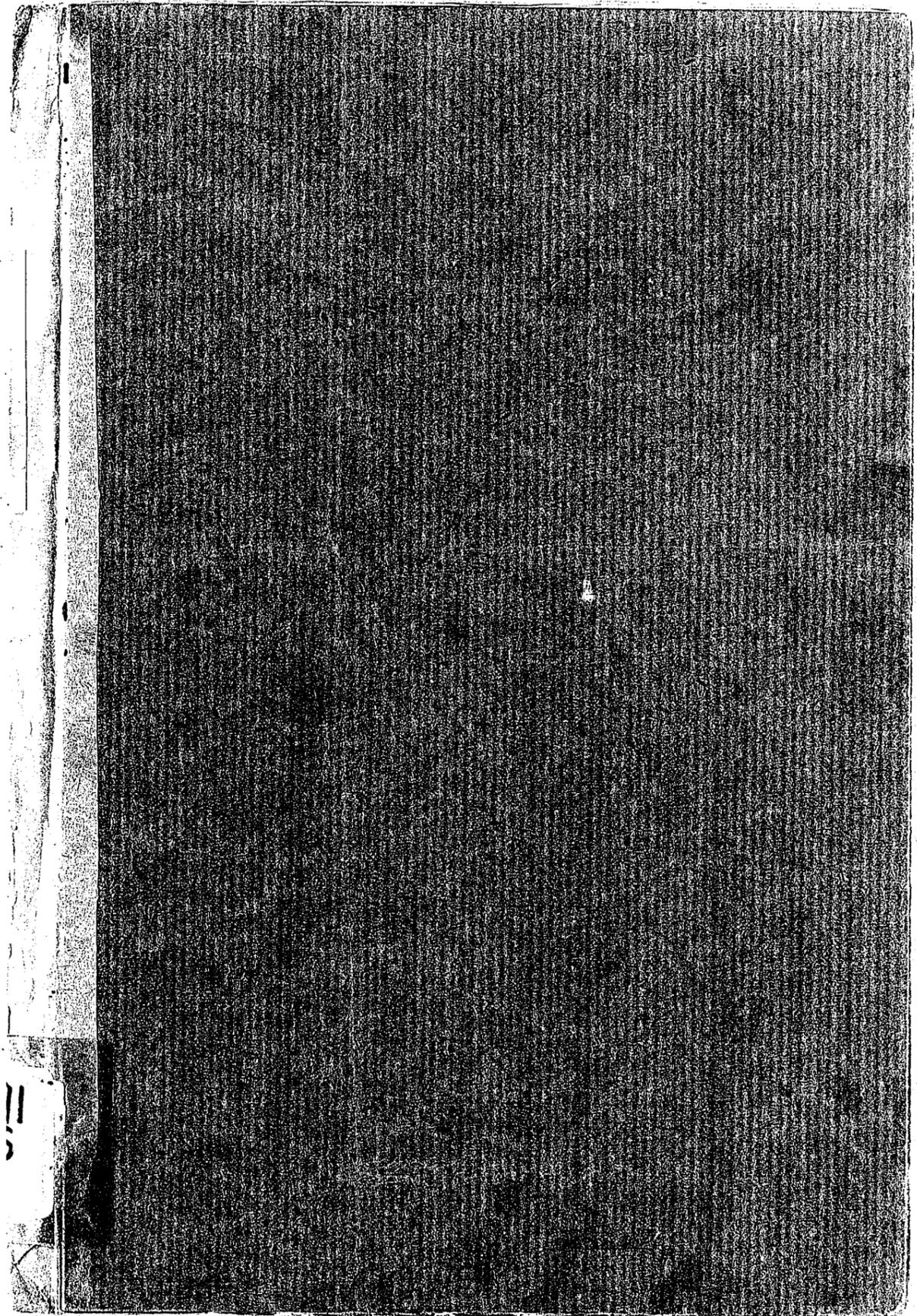
和<sup>題</sup>歌<sup>題</sup>の<sup>題</sup>一<sup>題</sup>分

北<sup>題</sup>村<sup>題</sup>氏





8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03962 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9



11  
3



8 9 県立串本古座高校所蔵 中根文庫 資料番号 03962

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9